

平成16年度

14th

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

入 選 作 品

主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会
(若柳町、築館町、迫町、宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
後援 宮城県、若柳町観光協会、築館町観光協会、迫町観光協会、
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、
河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、岩手日報社
協賛 富士写真フィルム株式会社、宮城県写真材料商組合

入 選 者

各 賞	題	氏 名	住 所
最優秀賞 (宮城県知事賞)	雁行と栗駒山	伊 藤 孝 喜	登米郡中田町
優秀賞 (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	躍 動	千 葉 稔	登米郡豊里町
金 賞 (若柳町長賞)	明けの群翔	廣 野 昌 邦	宮城県塩竈市
金 賞 (築館町長賞)	初秋の華	小野寺 亨	栗原郡瀬峰町
金 賞 (迫町長賞)	夕 照	伊 藤 利喜雄	岩手県一関市
銀 賞 (若柳町観光協会会長賞)	幽 玄	千 葉 忠 雄	栗原郡若柳町
銀 賞 (築館町観光協会会長賞)	夜明けの伊豆沼のほとり	遠 藤 正 弘	本吉郡志津川町
銀 賞 (迫町観光協会会長賞)	ん？	佐々木 圭 子	栗原郡栗駒町
銀 賞 (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	飛びたつ	滝 澤 昭 夫	岩手県一関市
銅 賞 (河北新報社賞)	残 照	天 野 宗 謙	宮城県仙台市
銅 賞 (読売新聞社賞)	夜明けのシンフォニー	菅 原 善 弘	本吉郡志津川町
銅 賞 (朝日新聞社賞)	朝光飛翔	高 橋 正	登米郡米山町
銅 賞 (毎日新聞社賞)	夕 暮 れ	林 茂	宮城県仙台市
銅 賞 (岩手日報社賞)	幽玄伊豆沼	鎌 田 和 則	宮城県仙台市
入 選	夏の伊豆沼	日 下 武 志	宮城県仙台市
入 選	葦に休む	赤 間 昭 夫	宮城県多賀城市
入 選	静 寂	二 瓶 茂	宮城県仙台市
入 選	カップル誕生	脇 坂 巖	宮城県仙台市
入 選	朝 霧	菅 原 一 二	栗原郡志波姫町
入 選	ハスの咲く頃	伊 藤 進	宮城県古川市

総 評

伊豆沼・内沼写真コンテストの選考を、今年もさせていただきました。応募の皆さんの熱心な心境が、多く作品から伝わってきました。定番の朝日と飛翔する野鳥の群れという写真も多くありましたが、毎年、少しずつ素材の扱い方や撮影対象が変わってきているように思います。湖や周辺の四季の姿など、撮影していく視点を変えれば、まだまだ無限の魅力が秘められていると思います。例えば、夏のハス田の風景、緑豊かな岸辺の味わい、雪が降った沼の風景、田園と沼、稲穂の様子などちょっと注意すれば無数の魅力が引き出せると思えます。もう少し、野鳥以外の風景も、興味を持って見つめてみて下さい。

フォトコンテスト審査員 竹内 敏 信



1943年愛知県生まれ。名城大学理工学部卒。愛知県庁勤務の後、フリーとなる。主として35ミリ一眼レフカメラを駆使し、鋭利な感覚と的確なテクニックで自然の映像化に挑戦し続ける。風景写真の第一人者として最も人気が高く、多くの写真のコンテストの審査員を務める。写真展、講演会など多数。主な写真集に「花祭」（誠文堂新光社）、「天地」「天地聲聞」「櫻」（出版芸術社）、「天地風韻」（日本芸術出版社）、「雪月花」（トーヨーセブン）（社）日本写真家協会会員
日本写真芸術専門学校副校長
東京工芸大学
現代写真研究所講師



【評】 大空一杯に広がって飛んでいる、雁の姿がダイナミックに捉えられています。その飛翔の様子が美しいことと、背景に白銀を抱いた栗駒山の姿が捉えられており、鳥たちの安息の地である伊豆沼・内沼と周辺の環境が、美しく表現されているのです。



【評】 作者は、撮影位置を注意深く計算しています。白いサギの群れを、背景の湖や環境から抽出するために、背景が暗くなる位置を選んで撮っているのです。それによって、浮かび上がった鳥たちの群舞が、美しいドラマとして感じられるのです。



金賞（若柳町長賞）
「明けの群翔」
広野 昌邦

【評】 明けゆく大空を、群舞する鳥たちの姿をダイナミックに捉えています。伊豆沼・内沼写真の典型とも言える作品となっているのです。朝日、茜色の空、朝霧など鳥の群舞にマッチする光景が捉えられているのです。

金賞（築館町長賞）
「初秋の華」
小野寺 亨



【評】 広角レンズを使い、思い切ってハスの華に接近しています。そうして得られた広角クローズアップによってハスの花の存在感が引き出されました。花が見事に浮かび上がって、沼全体を支配しているような味わいが出ました。



金賞（迫町長賞）
「夕照」
伊藤利喜雄

【評】 非常に雰囲気のある作品となっています。夕方の色合いが、美しく湖面を染めて、漁網や岸辺の樹林がシルエットになっています。天空の雲が湖面に映えていて、良くみると捕食している2羽のサギも捉えられて、生きている沼の姿が浮かび上がっています。



銀賞（築館町観光協会会長賞）
「夜明けの伊豆沼のほとりで」 遠藤 正弘

【評】 未明の沼の風景が、美しく捉えられています。長時間露出によって、天空の星の軌跡が捉えられ、それが同時に湖面にも映り込んでいるのです。もう少し早い時間から撮影を始めて、星の軌跡がもっと長く写ると味わい深くなりました。



銀賞（若柳町観光協会会長賞）
「幽玄」 千葉 忠雄

【評】 未明の沼、そして天空が捉えられている斬新な作品。大空には飛行機雲、そして野鳥の群れが飛んでいます。遙か彼方から、飛来してくれた鳥たちの時空が感じられる意欲的な作品となっています。



銀賞（宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞）
「飛びたつ」 滝澤 昭夫

【評】 一斉に、飛び立とうとしている鳥たちの後ろ姿です。後ろ姿に、一瞬のざわめきを感じられます。そして、羽の文様なども確認できるのです。面白いアングルの、飛翔写真となっているのです。

銀賞（迫町観光協会会長賞）
「ん？」 佐々木 圭子

【評】 画像は白鳥のクローズアップなのですが、タイトルで成功しています。この「？」とは何を意味しているのでしょうか、「？」は、カメラに向けられているのか、写された白鳥の姿に向けられているのでしょうか……？。



銅賞（河北新報社賞）
「残照」 天野 宗謙



【評】 枯れ枝に留まって天空を眺めているのは、カラスなのでしょうか。そのシルエットを引き立てているのが、背景の夕日。この両者が象徴的に捉えられていて、印象深い作品となって成功しました。

銅賞（読売新聞社賞）
「夜明けのシンフォニー」 菅原 善弘



【評】 夜明けの太陽が、遠くの山の上から顔を出しています。冬の日が、始まります。赤く染まった天空に、一際輝く太陽の姿と湖面の鳥たちの姿が印象的に捉えられています。

銅賞
（朝日新聞社賞）
「朝光飛翔」
高橋 正



【評】 水を蹴って、水中から飛び立とうとする白鳥を、低速シャッターで捉えて動感を引き出しています。これから大空へ飛び立っていく予感と、彼らの生命力を感じさせる姿が、美しく表現されています。

銅賞（毎日新聞社賞）
「夕暮れ」 林 茂



【評】 広角レンズで、白鳥に接近して撮っています。しかも、逆光ライティングなのでストロボを使って、シルエットにならない計算をして撮っているのです。そんな努力によって、今までの作品とは、少し異なった味わいが魅力の作品です。

銅賞（岩手日報社賞）
「幽玄・伊豆沼」 鎌田 和則

【評】 超望遠レンズを使って輝く湖面と、雲間から顔を出している太陽を捉えています。僅かな輝きとシルエットになった岸辺と、湖面の鳥たちの姿に、悠久の伊豆沼の自然の様子が捉えられています。



入選
「夏の伊豆沼」

日下 武志



【評】 蓮の花が咲いている沼の風景と、羽を広げたシラサギの姿を同時に捉えて新鮮味が出ている作品です。

入選
「葦に休む」

赤間 昭夫



【評】 枯れてしまった葦の茎に、羽を休めている小鳥の姿を美しく捉えています。背景の湖の水の模様も、装飾的な効果を上げています。

入選
「静 寂」

二瓶 茂



【評】 夕照で赤く染まった湖面に、シルエットになって浮いている枯れ蓮の姿。その情景に、独特の味わいが出ています。

入選
「カップル誕生」

脇坂 巖



【評】 明けゆく沼の風景が、二羽の白鳥のシルエットで印象的に語られています。空と空間の色合いが、またドラマを盛り上げているのです。

入選
「朝 霧」

菅原 一二



【評】 ネガカラーフィルム独特の色合いが、不思議な雰囲気を出しています。シルエットの枯れ蓮、遠景の鳥の群舞、その対比が面白いのです。

入選
「ハスの咲く頃」

伊藤 進



【評】 真夏の撮影です。もっと夏の風景を撮って欲しいと思います。ハスの群落と観光舟の風景が捉えられています。空をカットして、もっとハスの様子を見せて欲しい作品です。